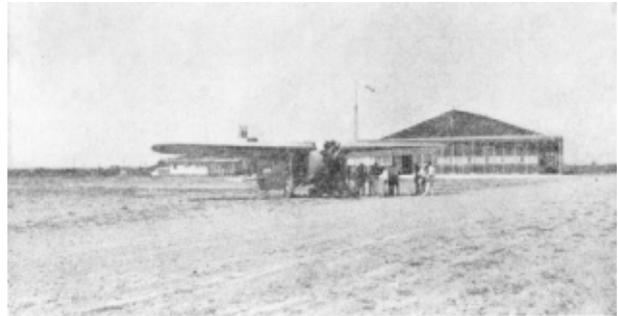


## 国際都市にふさわしい街づくり ～ 博覧会に併せて都市インフラ整備Ⅲ～

### ■ 国際飛行場の建設への動き

昭和4年5月、名古屋市会で国際飛行場設置に関する意見書(市長宛て)が採択された。同時に、名古屋商工会議所が飛行場設置と旅客機の寄航方に関する陳情活動を展開した。

昭和7年7月、愛知県が名古屋港において飛行場の新設を計画、名古屋港の第四期築港工事の剰余土砂を用地の埋立てに利用する計画であった。候補地は最終的に西突堤の外側(名古屋港11号地)へ決まり、昭和9年9月に埋立て工事の施行が認可された。しかし、飛行場の埋立てに時間がかかることから、愛知県は並行して名古屋港10号地に仮飛行場の建設を進めた。



名古屋港10号地の仮飛行場

出典：『大正昭和名古屋市史』第5巻

### ■ 仮飛行場の開設(昭和9年10月)

昭和9年6月、飛行場の運営のため、愛知県、名古屋市、名古屋商工会議所によって「名古屋国際航空協会」が設立された。

同年10月、愛知県によって名古屋港10号地(現・港区潮凧町)に仮飛行場(10万坪)が開設された。

「日本空輸会社」によって定期便が就航し、旅客と貨物を輸送。路線は東京行・大阪行・京城行(現在のソウル)があった。

開設当初は利用者が少なく、飛行場利用の呼びかけがなされた。昭和10年度中に発着した旅客は1411人、郵便物は11万4261通、貨物は344kg。昭和15年10月、空路の再編にともない、仮飛行場の定期便が廃止された。

路線	昭和九年十月	昭和十年十月	昭和十一年十月
東京行	五四名	一〇名	一〇名
大阪行	七一名	一〇名	一〇名
京城行	七一名	一〇名	一〇名
合計	一四二名	二〇名	二〇名

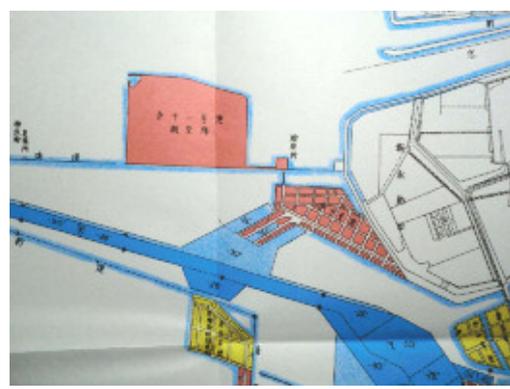
仮飛行場の利用状況

出典：『名古屋商工会議所月報』第316号、昭和10年2月

### ■ 戦時下に名古屋飛行場を建設(昭和16年10月)

昭和16年10月、名古屋港11号地(現・港区空見町)に水陸両用の名古屋飛行場が完成。しかし、定期便が就航する空港としては利用されないまま敗戦を迎え、米軍に接收された。

下は昭和初期の名古屋港の図面。右図は飛行場があった10号地と11号地。



名古屋港第4期工事図に描かれた名古屋飛行場 出典：『名古屋港史建設編』附録